

志小安全・防災だより



R元. 7. 16 No.15
安全・防災担当:早坂 潤

6年生の防災の授業へのご協力ありがとうございました

11日に、南三陸生涯学習センターにおいて6年生の防災の勉強を行いました。この日は外部講師として南三陸消防署員の方々、くろしお見守り隊の阿部さんに来ていただき、子どもたちのフィールドワークで震災時津波がどの位置まで襲ってきたのか、現在の復興工事の中には次の災害に備えたものも含まれていること、上の山公園付近は、志津川の教育の発祥地であること、過去に何度も災害を乗り越え、現在の志津川があることなど子どもたちと一緒に歩きながら説明をいただきました。これまで話には聞いていた旭製糸工場とは何の工場だったのか、昭和12年の志津川大火でどこが燃えたのか、上の山公園にある東日本大震災時の津波の高さを示す柱は、なぜ木で作られているのかなど、本には載っていないようなことも教えていただきました。



阿部さんから、昔の志津川の写真を見せていただきました。八幡川沿いに家が密集していました。

初めは緊張気味でしたが、だんだんと自分を出し始めた子どもたちでした。

今みんなが立っている場所は、震災前は新井田川（東川）が流れていた場所だそうです。



東日本大震災時の津波の高さを示す柱はなぜ木（南三陸杉）で作られているのかが分かりました。

消防署の方々に道路に設置されている消火栓のマンホールの中を見せていただきました。

生涯学習センターに戻り、今日の勉強の振り返りです。活動のまとめの話をいただきました。

今回の6年生の防災の授業には、大学の先生方も参観しました。授業の導入で用いた震災前の志津川の写真は、佐良スタジオさんよりいただいたものです。また、生涯学習センターを授業会場として使わせていただくに当たり、公民館や図書館の方々には、かなり前より子どもたちが安全に集中して学習に取り組めるように場の設定の仕方をいろいろとアドバイスをいただけてきました。フィールドワークでは所々で霧雨が降り出しましたが、なんとか持ちこたえることができました。今回の活動をきっかけに地域についてどんどん学んでほしいと思います。